



## 4月1日 公益社団法人になりました

日本海員掖済会は、4月1日をもちまして一般社団法人から公益社団法人に法人格が変更されましたのでお知らせいたします。

長年のご支援ご協力に感謝いたします  
とともに、より一層地域の皆様の病院  
を目指し尽力してまいります。



## 手外科・マイクロサージャリーセンター開設

これまで整形外科として、切断指の再接着や重度の手外傷治療を行なってきましたが、その特殊性と専門性を内外に周知していただきやすいよう、この度「手外科・マイクロサージャリーセンター」を標榜いたしました。従来通り、手の開放損傷や緊急手術を要すると思われる患者さんの対応と、急性期を脱した患者さんでも治療方針について迷われている場合や、手の慢性疾患の患者さんの相談や治療にも対応いたします。連携医療機関から、医療連携枠として手外科専門医師の予約確保が可能ですので、ぜひご利用、ご活用ください。

それに伴い「整形外科」の標榜が「整形外科・手外科」へ変更となります。



## トレッドミル連携検査 休止について

トレッドミル連携検査について、当院の人員都合により4月から、一時休止とさせていただきます。トレッドミル検査が必要な患者さまがみえる際には循環器内科への診療予約をいただければ診療にて対応させていただきます。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします。

## 退職のご挨拶

副院長・整形外科主任部長

### 渡邊 健太郎



私はこの3月で病院を退職することになりました。平成14年4月に整形外科の主任部長として着任して18年、研修医時代を含めると22年3か月の間お世話になりました。私が最初に入職した昭和58年当時の病院は、すでに解体された北館と現在職員食堂となっている旧救命センターしかありませんでした。翌昭和59年に現在の外来棟である南館が出来、そして平成28年に入院棟が完成し、一つの病院の在職中に2回大規模な引越しをするという経験をしましたが、当時のことを思い出すとまさに隔世の感があります。

整形外科としては部長として赴任した当時は105床を有していましたが、当時の平均在院日数は28日前後と長いものでした。その後全病床数の減少や平均在院日数の短縮、また診療科の増加などもあり現在の病床数は70床となっていますが、着任当時に比べて手術件数は700件ほど増加し平均在院日数も約12日と大幅に短縮しています。

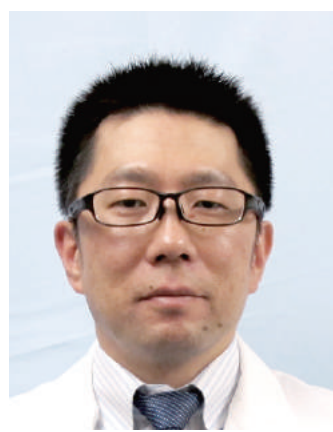
その間64名の整形外科医を育ててまいりましたが、いずれも優秀な弟子ばかりであったことは何物にも代えがたい宝物です。私の後任となる熊谷寛明部長と太田英之部長には安心してバトンタッチすることができました。さらにも協力的であった他科の先生方や看護師さんをはじめとする多くの素晴らしいコメディカルの方々に恵まれたことも私にとって幸甚の至りでありました。この場を借りてあらためて心からお礼申し上げます。また昨年3月に当院を離れられた私の恩師である木野義武先生には36年間ご指導いただき本当にありがとうございます。

この4月からは愛知淑徳大学健康医療科学部で教鞭をとります。医療の現場からは少し離れますが健康の維持と増進を目的とする点ではこれまでと同じ気持ちです。最後になりますが、職員皆さまには重ねて感謝申し上げますとともに、名古屋掖済会病院の益々の発展を祈念して退職のご挨拶とさせていただきます。

## ごあいさつ

副院長・外科・消化器外科部長

### 加藤 祐一郎



この度、令和2年4月1日付をもちまして副院長に就任いたしました外科の加藤祐一郎です。外科に2人加藤がいますが、おじさんでイケメンじゃないほうの加藤です。よろしく願いたします。

私のことを知らない方も多いため、まずはお自己紹介をさせていただきます。昭和47年1月12日生まれ、山羊座O型、48歳の男性です。生まれも育ちも名古屋市は北区の大家根になります。極めて人見知りの性格なので、初対面の人とはうまく話すことができません。そのため不愛想な感じにみえるかもしれませんが許してください。優しく話しかけてくれると嬉しいです。

私は平成9年に名古屋大学医学部を卒業し、厚生連加茂病院(現豊田厚生病院)、名古屋大学医学部付属病院、国立がん研究センター東病院を経て、平成28年4月より名古屋掖済会病院で勤務しております。がん研究センターに12年ほどいましたので、消化器外科領域のがん治療(特に胃・肝胆膵

領域のがん)や鏡視下手術(腹腔鏡手術・ロボット手術)が専門になります。

偉大なる渡邊健太郎先生の後任ということで、自分の背にかかる重みで、もうつぶされておりますが、若さ?と体力?(と)いつでもアラフィフで、腰痛持ちですが(;)で何度でも立ち上がり、前を向いて進んでいきたいと思っております。

元々私は、先頭に立って引張っていきけるようなタイプではさらさらございませんが、副院長をお引き受けした限りは、その職務を全うし、自らも成長したいと思っております。現時点では甚だ微力なのは間違いありませんが、謙虚に「おこらず、誠実に」をモットーに、皆様の御期待に添えるよう、そして名古屋掖済会病院がより患者様様へ選ばれる病院になれるよう一層の努力をしたいと思っておりますので、ぜひとも多大なる御指導と御鞭撻として御協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様どうかよろしくお願致します。